

---

# Antique

風月莢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Antique

### 【著者名】

風月莢

N7604E

### 【あらすじ】

夏の海辺に金髪の青年の後姿。神話は美しいだけじゃない。7月最後の幻想。金髪の青年は「神話21世紀」に登場するキャラクター、「彼岸の使い」の里雪です。

漣の音。

.....。

暗い。暗い海。月明かり。

静かな夜の砂浜。

星の光のかすかな揺らぎ。

おどき話でも、始まるのかと思つ。

それは誰かの記憶に埋もれてしまつたような、古い、アンティークのよつや不思議な景色。

砂浜にぼつんと、青年の後姿。金の髪が7月の風に揺れる。  
果てない闇のよつや海に向かつて、ひとり。

動かない後姿。

時々金の髪が思い出したよつに揺れる。  
白い衣装を纏ひ、儂い幻のよつや青年。彼の立ち姿は、人ではなく  
ゴーローンやペガサスを連想させる。

声をかけようか。

近づきたい。けれど近づくべきでないと心のどこかが警報を発して  
いる。

神話から抜け出でてきたよつな、すらりとした青年の後姿。

彼が半歩動く。どきりと心臓がざわめく。

見てはいけない。本能が警報を鳴らしている。

また半歩。

その場を離れたほうが良い。ここにいてはいけない。

直感と名残惜しさがせめぎ合つ。

半歩。

何度動いても、彼は後ろ向きのまま。

半歩。半歩。半歩。

違和感が恐怖に変わる。

半歩。

彼が動き続いているのではない。

半歩、半歩、半歩、半歩、半歩、

気付いてはいけない。

漣の音。

月明かりが彼の金髪を淡く撫でる。

気付いてはいけない。気付いてはいけない。

半歩半歩半歩.....

気付いてはいけない。

『私『自身の『時』が、止まつたのだ。

.....

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7604e/>

---

Antique

2010年11月12日11時19分発行